

インターバンクの声（2015 年 8 月 10 日）

週末、米労働省が発表した7月の雇用統計は、非農業部門就業者数が前月比21万5千人の増加となり、雇用回復の目安となる20万人増を3ヵ月継続させた。過去2ヵ月分の数字が上方修正されたこともあって、今回の数字が市場予想を若干下回っても9月利上げの見方は変わらないとの評価がもっぱらのようだったが、株、債券、為替の発表直後と数時間後の相場の変化にはややバラつきが見られた。10日から始まる週にも複数の経済指標や小売企業の決算発表などが予定されていることも影響したのだろうが、何よりも夏休み入りしている市場参加者が予想以上に多かったことが響いたようだ。結局、ドル円は先月終盤から先週中盤まで続いた124円を跨いで動いていた水準に逆戻り。雇用統計の発表をきっかけにして125円でドルの下値を固めるといった展開とはならなかった。仮に9月に利上げがあっても、その後の利上げのペースが緩やかになるとの見方がより強まり、米長期債利回りが顕著に低下したことも、ドルの上値を重くしていたようだ。今後は9月の利上げに否定的となるような指標結果に注意することになりそうだが、連邦公開市場委員会まで日数がかかなりあることもあり、暫くは市場の指標への反応も普段よりも鈍くなるかもしれない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。